

これまでの議論に対する考え方について

平成29年4月27日
日本電信電話株式会社



資料5-4

1. 将来のネットワークインフラへの期待

- ネットワークインフラは「ミッションクリティカルな社会基盤」として進展し、多種多様なサービスが今以上に提供されるものと考えられる。

2. 2020年から2030年ころまでのネットワークインフラに求められる機能

- NW機能のソフトウェア化を支えるのは基盤となる物理NWであることから、従来の考え方を踏襲し、NWを構成するハードウェアの機能向上と信頼性確保の両立が必要。
- NW機能のソフトウェア化により多種多様なサービスを効率的に提供できる可能性は高まると考えられるが、柔軟性の確保はNWそのものに影響を与えないことが前提。

3. 将来にわたり安定的なネットワークインフラを実現するための技術課題等

- 我が国が一体となって取り組むべき領域（協調領域）と、事業者が差異化要素として取り組むべき領域（競争領域）の考え方のもとで取り組むことが必要。

4. 将来のネットワークインフラの発展イメージ

- 我が国全体でロードマップをすりあわせ、必要となる技術開発に取り組む。